

ぬっくの想い

「生きていいんだよ」
「自分の人生を歩める力を持っているんだよ」
「一人でがんばらなくていい、
私たちがいつまでも寄り添うよ」

そんな思いを、子どもたち一人ひとりに伝えたい。
子どもたちの心がじわじわとぬくもり、次の一歩が踏み出せる
その日まで、ぬっくは、子どもたちを包み込みます。

- 理事長** 玉野 まりこ（弁護士）
- 副理事長** 廣瀬 みどり
（関西学院大学 人間福祉学部 社会福祉学科 非常勤講師）
- 理事** 相間 佐基子（弁護士）
乾 隆雄（元児童養護施設 施設長）
大森 順子（シングルマザーのつながるネット まえむきIPPO代表）
津崎 哲郎（NPO法人児童虐待防止協会 理事長）
丹羽 有紀（弁護士）
松下 美穂（弁護士）
松田 陽子（俳優、シンガーソングライター、NPO法人self 理事長）
森本 志磨子（弁護士）
- 監事** 能島 裕介（尼崎市理事・尼崎市教育委員会教育次長、
特定非営利活動法人ブレーンヒューマニティー ファウンダー）
笠原 麻央（弁護士）



〒530-0047
大阪市北区西天満4丁目1番4号
第三大阪弁護士ビル503号葛城・森本法律事務所内

☎ 06-6355-4648
✉ kodomo@nukku.info



ANNUAL REPORT 2021

活動報告書

NPO 法人子どもセンターぬっくとは

虐待や貧困、非行等により家に居場所をなくし、
心身ともに傷ついているのに、制度のはざまに落ち込み、
支援が届きにくくなっている10代後半くらいの子どもたちを支援する団体です。

そんな子どもたちに、安心して心身を癒せる生活の場を提供し、
自分らしく生きる権利を保障するため、子どもセンターぬっくを設立しました。



私たちが大切にしていること

1 一人にしない支援

虐待等により尊厳を傷つけられた子どもたちは、対人不信や深い孤独を抱えています。

しかし、孤独になりたくてなっている人は、誰一人としていません。

私たちは、生きづらさを抱えた子どもたちの揺れやつまずきに寄り添い、
そのまます受けとめ、「一人にしない支援」を粘り強く続けていきます。

2 自己責任で終わらせない

たとえ、生きづらさの原因が、本人の特性や課題によるものであっても、

「自己責任」では終わらせません。本人の持てる力を信じて、寄り添います。

思考停止せず、スタッフ・コタン（子ども担当弁護士）・関係機関等と連携して取り組みます。

3 子どもたちと"社会"をつなぐ

生きづらさを抱えた子どもたちは、社会に居場所がないと感じています。他方で、ボランティア、
ご寄付、物件提供などさまざまな形で、子どもたちの幸せを願い、
応援する人たちが社会にはたくさんいます。

私たちは、ぬっくだけで抱え込まず、次の人へ、社会へと“橋渡し”をしていきます。
一人ひとりが社会とつながっていて“何かができる自分である”と、
互いに実感できる社会をめざします。



2021年度活動のお礼とご挨拶

子どもと対話をしながら 時には失敗にも寄り添う

2022年6月18日に開催された定時総会において、
前理事長森本志磨子さんの後任として、理事長に就任
いたしました。2016年4月に子どもシェルター「ぬっ
くハウス」を開設して6年、2020年4月に自立援助
ホーム「Re-Co」を開設して2年が経過しました。
この間、さまざまな困難を抱えた百数十名の子どもた
ちを迎え入れ、地域へ送り出す中、緊急的な保護や一
時的な自立支援では完結しないことを目の当たりにし
てきました。

今後は、これまで通り「ぬっくハウス」や「Re-Co」
での日々の生活を大切にしつつ、退居後に社会で孤立
しないよう、アフターケアにも重点をおいて取り組ん
でいきたいと思います。10代後半の子どもたちは、た
だでさえ心や身体が不安定に揺れ動くところ、背景に
虐待や貧困等の事情がある子どもたちには、さらに粘
り強い関わりが求められます。一筋縄ではいかないこ
ともたくさんあります。

そのような子どもを真ん中に置き、子どもと対話をし
ながら、時には失敗にも寄り添い、温かく息の長い支
援を続けて参る所存です。

今後とも、一層のご支援・ご協力を賜りますよう、
心よりお願い申し上げます。

弁護士 /
NPO 法人子どもセンターぬっく
理事長

玉野 まりこ



「生きるのも悪くないな」 と思えるように

2016年の設立当初より、皆さまには子どもセンター
ぬっく（以下「ぬっく」といいます。）の活動にご理
解、ご支援いただき、誠にありがとうございます。振
り返れば、たくさんのご迷惑をおかけしたにもかかわ
らず、内外よりあたたかいご支援とご指導を賜りまし
たことは、とてもありがたく、この場をお借りして改
めて心より感謝申し上げます。このたび、私自身の理
事長としての役割は一定担い終えたと考え、さらなる
ぬっくの発展のため、2022年6月18日の総会をもちま
して、6年間務めました理事長を退任しました。後任
は、すでに精力的に活動しておられる副理事長の玉野
まりこさんが就任され、始動しております。

今後は、ぬっくの活動を始める原点となった週末里親
や、社会的養護の当事者団体Children's Views&
Voices (CVV) の活動などを再開しながら、一理事と
して、生きづらさを抱えた若者たちが、「生きるのも
悪くないな」と思えるような、社会での居場所のあり
方などについて、退居した当事者や思いのある人たち
や専門家の方たちと共に考え、実践していけたらと
思っております。

今後とも、子どもセンターぬっくへの温かいご支援を
どうぞよろしくお願いいたします。

弁護士 /
NPO 法人子どもセンターぬっく
初代理事長

森本 志磨子



家庭に居場所のない子どもたちの実情

制度のはざま

高校生の養育を担い、高校生活を支えるはずの児童養護施設等は、義務教育を終えてから入居を希望する子どもたちを、ほとんど受け入れていない実情があります。また、18歳・19歳になってから児童相談所に相談しても、一時保護は制度的にできないため、してもらえません。高校進学率が95%（通信制含むと98%）を超え、大学・短大・専門学校等への進学率も80%を超える社会において、中卒や高校中退した子ど

もたちだけでなく、全日制に通う高校生ですら、シェルターや自立援助ホームくらいしか、生活の場としての選択肢がありません。ぬっくの自立援助ホームには、自立の準備をする以前に、受容し、養育するところから始める必要のある子どもたちがたどりついています。受容と自立という2つの課題は両立しがたいところ、その両方の支援が求められる実情にあります。

複合的な傷つきによる生きづらさ

幼少期の課題の積み残し、心身の傷つきを抱えたまま、思春期を迎える子どもたちに、自立の支援をすることは大変な困難を伴います。虐待等により尊厳を傷つけられた子どもたちは、対人不信や深い孤独を抱えています。それらは、自傷、人やモノへの依存、困ってもSOSを発さず我慢し続ける、自分から連絡を絶つなど、さまざまな生きづらさとなって表れます。

問題行動として表れたり、被害者になったり、なりかかったりなど。自立援助ホーム内や、学校・職場等での対人トラブルにつながることもあります。被害者にも加害者にもならないよう、細心の注意をもって支援しつつも、現実起きたときには、子どもの気持ちや特性を踏まえながらの対応が必要となります。難しく悩ましい課題です。

ニーズに応じる難しさ

スマホを手放したくない、他人との共同生活は無理といった理由で、支援は受けたいのに、シェルター等への入居を希望しない子どもたちが、最近増えてきています。そのため、スマホを手放せない気持ちやその背

景にある傷つき体験などに十分に配慮した上で、相談の入口で拒否されることへの現実的な対応や取り組みをすることが、重要な課題となっています。

1 子どもたちの生きづらさは、社会の問題

生まれてくる親や家族を子どもたちは選べません。心身に傷を負い、大人不信等の生きづらさを抱えた10代が、他者とつながることなく自立することは困難です。

「自分は普通じゃない。」

「なぜ生きる必要があるのか。」

「私には生きる価値なんてない。」

と子どもたちに感じさせる社会。

これは、子どもやその保護者の自己責任ではなく、そのような社会を作っている私たち一人ひとりが取り組むべき問題（社会問題）です。

2 傷ついた子どもたちには、人の温もりのある日常や関わりが必要

スマホでつながる見知らぬ人に代わる何か、を提供すること。

それは、子どもたちの心身の傷つきを受けとめ、安心できる身近な大人のいる、温もりある日常生活であり、また、退居した後も、関心を寄せ、息の長い関わりを続けることだと思うのです。

そのような日常生活や長期的な関わりを通じて、傷つきが少しずつ癒されていき、自分には回復する力があると実感してもらうことは、とても重要なことだと考えています。

私たちは、子どもたちの傷つきを癒し、尊厳の回復につながるような温もりある生活を提供し、息の長い関わりを続けていきます。

3 子どもを真ん中に、アセスメントしてチームで対応します

ぬっくにたどりつく子どもたちの複合的な課題について、

まずは、子どもを真ん中に置き、子どもの声を聞きます。

その上で、課題の糸口を探し、一つずつ解きほぐしながら、ぬっく内外の支援者がチームとなって、アセスメントして取り組みます。

ぬっくの
取り組み



数字で見るぬっく2021

ぬっくハウス



ぬっくハウスは虐待などにより家庭での居場所をなくした子どもたちの緊急一時場所（子どもシェルター）です。

Re-Co



Re-Coでは虐待その他の理由により家庭で生活することができない子どもたちに、生活場所を提供し自立に向けた支援を行っています。

ぬっくハウスからRe-Coへ入居した数 **5** 人

電話相談件数



アフターケア活動件数

ぬっくハウス及びRe-Coを退居した子どもたちへ、退居時の引越の手伝いや退居後の生活のサポートを行っています。

43 件

ぬっくハウス 2022年2月から活動を開始しました。

Re-Co 2022年2月から自立支援員を配置し、活動を開始しました。

コタン（子ども担当弁護士）によるアフターケアは、子どもの代理人活動として、別途実施しています。

活動・講演等

2021.05.31	大阪府・大阪市・堺市の児童相談所との意見交換会を実施
2021.07.14	八尾市じんけん楽習塾にて、ぬっくの活動と子どもたちの実情と支援をテーマに講演
2021.08.19	株式会社LIFULLの社員に向けて講演（オンライン）
2021.11.13	大阪府ほか主催の「女性に対する暴力をなくす運動府民向けセミナー ～若年層の性暴力の実情と被害者支援の取組について～」において、ぬっくの取組を紹介
2022.01.14	よりそいネットおおさか主催「刑務所ぐらし しゃばぐらし～若者が抱える問題を考える～」の講演会にて、ぬっくの活動から見た若者の抱える問題等について講演
2022.02.08	厚労省主催「困難な問題を抱える若年女性支援セミナー」（近畿ブロック）にて講演
2022.03.29	厚労省主催「困難な問題を抱える若年女性支援セミナー」（近畿ブロック）の研修会にて、ぬっくの活動概要と実践例について講演

メディア掲載実績

2021.11.16	読売新聞にぬっくが「第15回よみうり子育て応援団大賞」の奨励賞を受賞し、受賞表彰式に出席したことが掲載される
2021.12.17	毎日新聞にぬっくの活動に関する記事が掲載される
2022.02.03	読売新聞に18歳成人に関連してぬっくの記事が掲載される





子どもシェルター ぬっくハウス

ぬっくハウスとは、

虐待・貧困・非行等で安心して帰れる家がなく、今日眠るところのない
子どもの緊急避難場所（一軒家・家庭的な雰囲気）です。

- 対象は、制度のはざまに置かれた、おおむね義務教育を終えた15歳～19歳くらいの女子（定員6名）です。
- スタッフ・ボランティアが常駐しています。
- 一人ひとりに、安心してできる個室があります。
- 一人ひとりに、コタン(子ども担当弁護士、無償)が就きます。
- ここでは、まずは傷ついた心身を休め（日課はありません）、それから次の居場所を一緒に探します。
- 安全のため、通信機器（自分の携帯等）は使えません。外出時は必ず大人が付き添います。

ぬっくハウスの日常



ぬっくハウスのごはん

ある日の朝ごはん。タコさんウインナー、小さな焼きサバに卵焼き。たまにハート形の卵焼きも作ります。子どもたちが喜んでくれてたら良いなという思いでスタッフ・ボランティアさんが作っています。

肉まんづくりに格闘

ボランティアさんに教えてもらいながら、肉まんを包むお手伝いをして作りました。皮を破らないように、中身がはみ出ないように、でもたくさん具を入りたい...となかなか苦戦していましたが、形よく、おいしく蒸しあがりました。



塗り絵がきれいに仕上がっています

細かい作業が好きだと言う15歳の作品です。テレビでお気に入りの曲を流しながら、集中して色塗りを日々続けています。ふくろうが一番の出来でお気に入りとのことで、撮って～との依頼が。こうやって、気持ちが落ち着いたり、達成感が得られたり、自己肯定感が少しでも高まっていくといいなと思います。



2021年度のぬっくハウス

入居した人数

のべ **23** 人 平均入居期間 **47** 日

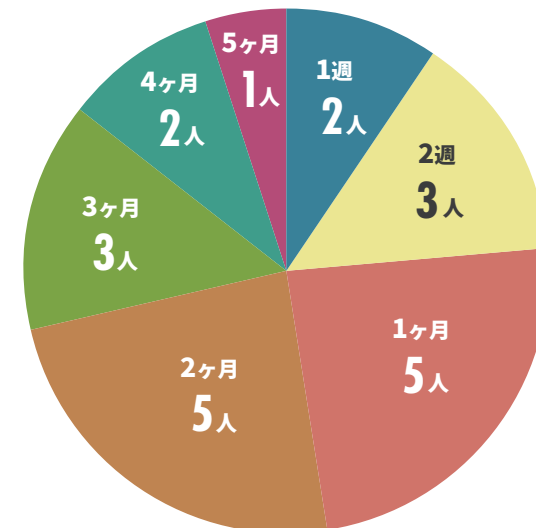
入居者内訳

高校生	11人	無職※	7人（うち浪人生2人）
中学生	2人	派遣社員・アルバイト	2人
短大生	1人		※16歳～23歳

入居日数

退居先が見つからず、4人に1人が2ヶ月を超えるなど長期化しています。

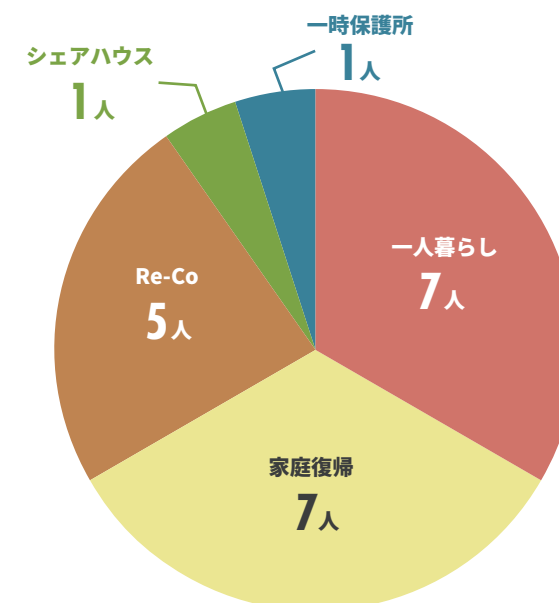
入居日数



退居した人数

のべ **21** 人

退居先内訳



通院同行した回数

のべ **54** 人

（一時保護の場合を除く）

親からの虐待やギリギリの生活の中で、どうしても病院受診は後回しになりがちです。通院同行により心身を整える大切さを知ったり、大切にされている自分を実感してもらえる機会になればと思います。

- ハウスでは、過ごすメンバーが短いスパンで変わるため、雰囲気さがらりと変わることもしょっちゅうです。
- 自分の意見をはっきり言う子もいれば、なかなか自分の意見が言えずため込む子もいます。
- スタッフ・ボランティアは、そうした集団生活の中、子どもたちに向き合いながら一人ひとりの思いを大切に毎日を過ごしています。
-

スタッフの声

帰り際の声かけを通して

初めての勤務を終えた日、リビングで過ごす子どもたちに帰ることを伝えると他児が「バイバイ」と返してくれる中、一人の子どもが明るく手を振り「ありがとう！」と言ってくれました。感謝できる状態で過ごしているのかなと思う反面、大人への気遣いや自身の心を支え守る力を感じられ複雑な思いがしました。その後もどんな人にも毎回そう返していたので彼女にとっては何気ないことだったのかもしれませんが、過酷な経験から前へ進む精一杯だったのではと今も時々思

い出します。帰り際の声掛けはその時の心情がよく現れる一瞬でもあります。玄関までお見送りしてくれる時、嬉しいことがあり笑顔で元気よく挨拶してくれる時、自分のことでいっぱい目も合わせず反応のない時、辛い状況をなんとか耐えてる目線を送る時、いろんな覚悟を込めてハイタッチで応えてくれる時……。次来たときはどんな表情で会えるかな、と楽しみと心配と応援の混じった気持ちで玄関を出ます。

自分のできる役割を探し続けて

私がぬっくボランティアの活動を始め、非常勤職員となったきっかけは、法律の専門家である弁護士さんが、苦しい状況にある子ども達のコタンとなり支援活動に力を注がれているのを知ったことでした。スタッフとして、まだ一歩踏み出したばかりですが、

仲間のスタッフやボランティアさん、子ども達との日々の関わりの中から気付きと学びを得、出会いや繋がりに感謝しながら、自分にできる役割を探し続けていきたいと思います。

当事者の声

Q ハウスはどういう場所でしたか？

初めてハウスに来たときは、慣れない人や生活場所に馴染めなかったり、家でのトラウマがフラッシュバックしたりしていましたが、スタッフさんが温かく接してくださるうちに少しずつ心を開いていくことが出来ました。誰にも否定されず、罵声を浴びせられることもなく、安心して眠れる場所があるというのが本当にありがたかったです。

Q 職員さんや、コタンさんはどのような存在ですか？

スタッフさんは、私がかでのことを思い出してづらくなった時、将来への不安でいっぱいになった時、私の気の済むまで親身になって話を聞いてくださいました。「たくさん我慢してきたんだね」「頑張ったんだね」「これからの人生きつと、どんどん良くなっていくよ」と、あまりかけてもらったことの無いようなお言葉をくださり、ひとりで生きていかなばならない未来への不安が少しずつ消えていきました。また、コタンさんにも「〇〇ちゃんは才能にあふれているので頑張ってやりたいこと叶えてくださいね！」と励まして頂き、とても救われました。仕事や社会制度のこと等で分からないことがある時、お聞きすると丁寧に答えてくださるのでとても心強いです。

Q ハウスの中で印象的だったことはありますか？

スタッフさんの作ってくださるご飯がとても凝っていたことです。朝ごはんから結構品数が多くて最初は驚きました。3食しっかり食べられたのでお腹が空いたと感じる日は無いと言っても過言ではないくらいでした。

Q これからハウスを利用するかもしれない人へのメッセージをください

私は家庭内のことで本当に悩んでいて、死のうかと思ったり家出しようと思ったり、全部ひとりで抱え込んでいました。ですがぬっくハウスには、ありのままの自分を肯定して下さったり、勇気を出して来てくれてありがとうと言ってくれたり、あなたの決断は間違っていないんだよと励ましてくださるスタッフさんがいらっしゃり、とても救われました。また、ハウスを出た後のサポートや自立支援も手厚くして頂けたり、弁護士さんからのサポートやアドバイスも受けられます。自分ひとりではどうにもならなかったことばかりでしたが、色々と支援して頂いたお陰で私も自立できました。そういう意味でも、私はハウスの利用をおすすめします。



自立援助ホームRe-Co

Re-Co とは

家庭にいられなくなった子どもたちが仕事や学校に通いながら、自立に向けて生活する場所です。

- 対象は、なんらかの理由で家庭にいられなくなった原則として15歳～20歳までの女子（定員6名）です。
- 一人ひとりに、安心してできる個室があります。
- ここでは、子どもが持っている力を発揮して、自分の意思で自分の人生を選びとり、社会への一歩を踏み出せるよう、サポートします。
- スタッフが常駐しています。
- 一人ひとりに、コタン（子ども担当弁護士、無償）が就きます。

2021年度の Re-Co

入居した人数

のべ9人

退居した人数

のべ5人

平均入居期間

325日

1週間以内1人、1カ月以内1人、7カ月以内1人、9カ月以内1人、1年6カ月以内2人

2021年度の新たな取り組み

- 大阪府の自立生活支援事業を活用し、ワンルームの賃貸物件1室を借り、退居の前の一人暮らしの練習の場として活用しています。
2021年度の利用者は2名です。
- 2022年2月より、アフターケアのための自立支援担当職員を1名配置しました。

Re-Co の日常



ある日の夕食後

ご寄付でいただいたUNOで遊んでいます。
だんだん白熱してくると、声が大きくなるので、「もうちょっと小さい声でね」とスタッフから声かけしました。
勝っても負けても、わーわーきゃーきゃー楽しそうです。

クリスマスツリー

今年もクリスマスツリーの出番がやってきました。
スタッフが飾り付けをしていると、子どもがやってきて「私もやりたい!」と。わいわいと話をしながら飾りつけ完成です。



海遊館へ行きました

Re-Coでは、年に数回、お出かけイベントを開催しています。どこへ行くか、子ども会議で子どもたちがそれぞれ行きたいところを出し合って、予算内におさまるところに決めます。今年度は海遊館へ行きました!海遊館ではみんなで一緒に写真を撮ったり、見て見て!と魚を指さして声をかけあったりと、楽しそうな様子。つかの間の春休みの思い出になったかな?

Re-Co の行事・ミーティング

原則月1回

Re-Co ミーティング

子ども、コタン、スタッフ、児童相談所のケースワーカーが参加します。
前回のRe-Coミーティングからの振り返りを行い、今後の目標、過ごし方について話し合います。自立に向けての準備のための大切な話し合いです。

年8回

子ども会議

集団生活をしていく中で、お互いに気になっていること、困っていることを子どもたち中心で話し合います。

■主な議題：お風呂の時間について、乾燥機の使い方について、食器の洗い方について

年2回

子ども行事

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、なかなか外出行事ができませんでしたが、そうした状況の中でも工夫しながら楽しみました。■9月：公園で花火 ■3月：海遊館と回転ずし

Re-Coには様々な約束事があります。

この約束事は運営委員とスタッフが、子どもたちが自立にむけて「安定した生活続ける力」「人とつながる力」を身に付けるために必要な最低限を考えて作ったものです。

子どもによっては、約束事を窮屈に感じて、コタンやスタッフに反発することもありましたが、約束事の意味と一緒に考えながら、自立に向けて一步一步進んできました。

スタッフの声

いつもあなたのことを応援しているよ

いつも子どもたちを応援していただき、ありがとうございます。りこスタッフ一同、心より感謝申し上げます。開所して約2年半が経ちました。個性豊かな子どもたちと過ごす日々は大変ではありますが、笑いあり涙ありで楽しく働いています。一見すると元気で明るい子どもたちですが、子どもたちの生き抜いてきた環境は凄まじく、「よくここまで生きてくれた」と思います。子どもたちが自分の生い立ちや親への思いをポツポツと語ってくれることに対し、わたしは「うんうん」と頷くだけで、何と言葉を返していいかわからず、ただただ隣にいることしかできないことが何度

もありました。「頷くことしかできなくてごめん。あのときも、そして今でも、あなたのことを応援している。その気持ちは変わらない」と、これまでりこに来てくれた子どもたちに伝えたいです。これまでに人間関係で負った傷つきは、あたたかい人間関係の経験を積み重ねることではしか回復できない、とわたし自身は考えています。

「傷つきからの回復に必要なあたたかさとは何か」「子どもたちは『あたたかい』と感じているか」と常に問い続け、よりよい自立援助ホームにしていきたいです。

「出勤って言わんとって！」

「出勤って言わんとって！」と子どもに怒られたことがあります。私自身も違和感があるため普段は「りこに来る」と伝えていましたが、スタッフ間の会話で「出勤」とポロッと出ていました。その子の真意は分かりませんが、内心「そりゃそうやんな。あなたの家やもん。」と100%共感し、反省しました。当たり前のようにりこに「出勤、しています、子ども達にとっては生活する家で、(施設と言えども)自分の家に誰が来るか分からないって落ち着かないよなあ、

私だったら慣れるまで時間かかるかもなあ、と想像だけが膨らみます(考えすぎ??)。

時々「〇〇とお話するのも仕事やろ!」「仕事やから～～(やり取りや対応)してるんやろ!」と言われることもあり、その度に心がチクッとします。確かに仕事に変わりありませんが、自分が子ども達と関わりたくてりこに来ているといつか伝われば良いなあ、違和感の解消方法も見つかるかなあと希望を持ちながら、やり取りを楽しむ日々です。

当事者の声

Q Re-Co (りこ) はどのような場所でしたか？

他の一般的な家と比べると、「自立援助」という名があるように、自らしなければならない事も多々ありましたが、学校やお出かけ行く前、帰った時「いってらっしゃい」「おかえり」と言ってもらえ、温かくおいしいご飯が食べられました。

本当は当たり前のことでも、それだけで一番とは言えずとも、安心して帰れ、リラックスして過ごせる家のような場所でした。りこをでてからも色々な支援をしてくれるいい場所です。(ご飯リクエストしたら作ってくれるときもあるよ。笑)

Q スタッフやコタンはどのような存在でしたか？

正直、スタッフさんへの好き嫌いはありました。あまり態度に出さないようにしていても気が付いてるスタッフさんもおもいます。それでも親身に寄り添って、私たちを思って厳しいことというけれど優しいスタッフさんばかりで、りこを

出てからも相談にのってくれるよい存在です。最近流行りのちいかわやサンリオ好きなスタッフさんもいるから雑談だけでも楽しく過ごせます。スタッフさんたちがいるから今も頑張れている、支えのような存在でもあります。

Q りこのなかで、印象的だったことはなんですか？

りこに入居している他の子と仲良くなって遊びに出かけたり(3人でりこから梅田まで歩く、ばかみたいなこともした!）、誕生日やお祭り(七夕やクリスマス)などのときはご飯がいつもよりち

よっと豪華になったりすることです。その中でも一番心に残っているのは、節分です。スタッフさんが鬼のお面をつけてりこの屋上で豆まきしました。みんなで全力ではしゃいで楽しかったです。

Q これからりこを利用するかもしれない人へのメッセージ

新しい環境に、知らない人、すごくすごく不安だと思います。私も入居したときめちゃくちゃ不安で自室に閉じこもって泣いたりしてました。笑 そんな私でも一緒に入居していた子と仲良くなれたし、一人暮らしもできてます。全く不安なくは無理だと思うけれども、この文章を見て少しでも

不安が和らぐといいなと思っています。しんどい環境から逃げることは悪いことじゃないし、むしろ自分を守るための大事な手段だと思います。ここまでひとりでよく頑張った!これからは気張りすぎんように一緒に頑張ろ～!

居場所のない子ども110番（電話相談）



虐待等により居場所がないなど、さまざまな生きづらさを抱えた子どもの悩みや相談を聴き、今後のことを一緒に考えます。ぬっくハウス・Re-Coへの入居相談に限らず、子どもの相談を受け付けています。10代・20代の若者が対象で、子ども本人からは子ども専用フリーダイヤルにて、子どもの支援者等の大人からは事務局の電話にて相談を受け付けています。相談があった場合、まずは詳しい事情を聞いて、一緒に解決方法を考えます。

相談者の性別は問いません。必要に応じて弁護士が子どもの担当（コタン）に就き、無料で法的支援・自立支援を行います。

電話相談
件数
のべ**131**件

2021年4月から2022年3月までの相談件数は、フリーダイヤル、事務局にかかってきたものをあわせて、のべ131件ありました。
10人がぬっくハウスに入居し、1人がRe-Coに入居しました。
相談の結果、入居以外の方法を選択することもあります。
その場合は、協力家主の物件や一般物件における一人暮らし支援、他団体との連携、継続相談などを行っています。

退居者等継続支援（アフターケア）事業



ぬっくハウスやRe-Coを退居した子どもたちへ、退居時の引っ越しの手伝いや退居後の生活環境の整備、役所・病院等への同行、子どもの不安・寂しさなどを和らげ精神的な安定を図るための相談や、見守り支援等を行っています。

相談件数
のべ**43**件

コタンによるアフターケアは退居した子どもたちほとんどへ行っています。
ぬっくハウスでは、ぬっくメイト（入居中から関係を構築したボランティア）及びスタッフがのべ30件のアフターケア活動を行いました。
Re-Coでは、スタッフが随時、退居者からの相談や家庭訪問、定期面談等を行っており、13件の活動を行いました。

子どもの諸問題に関する啓発及びネットワークづくり事業

スタッフ・ボランティア養成講座

新型コロナウイルス流行の状況を鑑み、2021年11月よりオンデマンドによるスタッフ・ボランティア養成講座を開始しました。講座受講後、ボランティア登録を希望する方には、対面での面接を実施しています。

受講者からのアンケート

「暖かい雰囲気、自分が尊重され、安心安全な生活で、心身の健康を取り戻すことができるようなシェルターの存在は本当に大切だと感じました。」「思春期の子どもたちの心について理解を深めることができました。」等の声が寄せられ、私たちが関わる子どもたちの抱える困難や支援の在り方について理解を得ることができました。

受講者数
21名

うち**16**名の方が
新規ボランティアに登録

新規の方
16名

児童相談所との意見交換会・ケース会議の実施

2021年5月13日、大阪府、大阪市、堺市の各児童相談所と意見交換会を行い、改めてぬっくハウス及びRe-Coの施設運営方針について児童相談所に説明を行うとともに、児童相談所との間で検討が必要な事項について意見交換を行いました。また、個々の具体的なケースについて、ぬっくハウスにおいては、担当ケースワーカーとコタン、スタッフが適宜会議を行い、Re-Coにおいては子ども本人も参加して（Re-Coミーティング）、支援の在り方や退居に向けてのステップ等を協議しました。

ニュースレターの発行及び配布、Facebookへの投稿

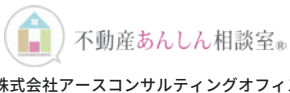
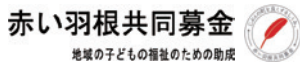
ニュースレターは2021年4月にvol.10、11月にvol.11、2022年3月にvol.12を発行し、会員や寄付者の皆様、子ども支援に関係する行政機関の窓口、民間団体等へ配布しました。また、FacebookではぬっくハウスやRe-Coでの出来事などぬっくの最新の活動を配信しました。



Facebookで
最新の情報を配信中！



ご支援くださった企業・団体の皆様

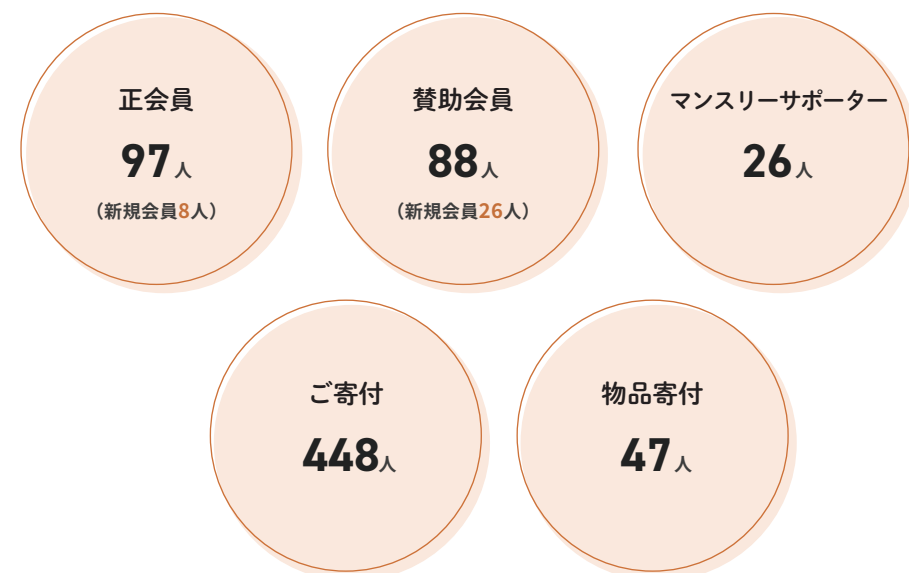
 株式会社アースコンサルティングオフィス	 赤い羽根共同募金 地域の子どもの福祉のための助成	 株式会社アサヒ企画 日用品・ギフト・施設ノベルティのバイオニア	栄照寺
 大阪ホームサービス株式会社	株式会社 大阪ガイドセンター	 大東中央ロータリークラブ Rotary International District 5110	 大阪はなみずきライオンズクラブ
 大阪ホームサービス株式会社	株式会社葛城建設	 CAPCOM®	国際ソロプチミスト 大阪 - 梅田
 COSTCO WHOLESALE	 こどもサポート 証券ネット 日本証券業協会こどもサポート証券ネット	支援プロジェクト直の会	諸福不動尊祐照寺
真如苑	千里寺	 てるうさ ファーム&キッチン	豊生肥糧株式会社
フロンティア勉強会	本田司法書士事務所	公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団	 charity shop megurimono
夕陽丘基金	読売新聞社	 Little Women Project 若草プロジェクト 一般社団法人若草プロジェクト	

順不同・敬称略

2021年度の寄付金額

15,374,720 円

ご支援くださった会員、寄付者の皆様



ご支援いただくみなさまの声

マンスリーサポーター 鍋倉 義明 様

マンスリーサポーターになろうと思ったきっかけは、元々ボランティアで参加していましたが会社で他県への異動となり、ボランティアの参加が難しくなった為でした。ボランティア参加の時には子どもたちから手作りのお菓子をもったり、一緒に映画鑑賞したりと支援のつもりが、自分が元気をもらうことが多くありました。異動が決まって「何か違う方法で支援できないか？」と思い、マンスリーサポーターへ登録しました。小さな支援となりますが、今後も子どもたちのサポートになればと思います。

正会員・寄付 河内山 淳子 様



ぬっくを知ったのは新聞記事でした。そこから情報を得て設立当初のセミナーに参加いたしました。その時に家庭が安心できる場所ではない10代後半の女の子たちの現状、支援には法律が関わり簡単ではない事を知りました。今は直接お手伝い出来ないけれど、ぬっくの皆様や活動を応援していきたいと強く思いました。そして、ずっと前に10代だったおばさんも女の子たちを応援しているよっていう気持ちです。

企業寄付 株式会社カプコン 様



大阪弁護士会に所属の弁護士が運営する、素晴らしい活動であるということを、当社の社外取締役である村中徹弁護士からご紹介を受け、社会貢献の一環として、将来を担う子供たちの健全育成を願い、協力をさせていただきました。

助成金内訳

① 読売新聞社 第15回よみうり子育て応援団大賞 奨励賞

対象期間	2021/04/01~2022/03/31	受取助成金	500,000円
使途	子どもや支援者がアクセスしやすいホームページの改訂		

② 令和3年度地域の子どもの福祉のための助成（大阪府共同募金会）

対象期間	2021/04/01~2022/03/31	受取助成金	574,000円
使途	自立に向けたワークブック等の購入や退居時の生活用品の購入、一人暮らしの子どもへの物品送付		

③ 夕陽丘基金

対象期間	2021/04/01~2022/03/31	受取助成金	100,000円
使途	ニュースレターの送料等		

活動計算書 (2021/04/01~2022/03/31)

経常収益				
1.受取会費			1,060,000	
2.受取寄付金			15,384,720	
3.受取助成金等			2,234,000	
4.措置費等			53,047,841	
5.事業収益			333,408	
6.その他収益			109,499	
経常収益計			72,169,468	
経常費用				
1.事業費	人件費計	37,255,175		
	その他経費計	18,996,255		
	事業費計		56,251,430	
2.管理費	人件費計	4,971,495		
	その他経費計	4,741,815		
	管理費計		9,713,310	
経常費用計			65,964,740	
	当期正味財産増減額			6,204,728
	期首正味財産額			27,388,411
	次期繰越正味財産額			33,593,139

貸借対照表 (2022/03/31 現在)

科目				
I.資産の部				
	1.流動資産			
	現金預金	24,538,743		
	立替金	1,809,024		
	未収入金	8,767,631		
	流動資産合計		35,115,398	
	2.固定資産			
	(1)有形固定資産計	0		
	固定資産合計		0	
	資産合計			35,115,398
II.負債の部				
	1.流動負債			
	未払金	1,379,765		
	預り金	142,494		
	流動負債合計		1,522,259	
	2.固定負債			
	固定負債合計	0		
	負債合計			1,522,259
III.正味財産の部				
	期首正味財産		27,388,411	
	当期正味財産増減額		6,204,728	
	正味財産合計			33,593,139
	負債及び正味財産合計			35,115,398

様々な方法で、ぬっくの活動にご参加ください

傷ついた子どもが、自分らしさを取り戻し、安心して未来に踏み出すための活動にご参加お願いいたします。

寄付で応援

ぬっくでは、子どもシェルターや自立援助ホームの運営だけでなく、シェルター等を退居した子どもや電話相談でつながった子どもたちの支援もしています。

ぬっくサポーター

毎月のご寄付で継続的に子どもたちの支援ができます

月々、1,000円からクレジットカードでのご寄付が可能です。

都度のご寄付

都度、好きな金額のご寄付で支援ができます

クレジットカードまたは銀行振込でのご寄付が可能です。

以下に活用いたします

相談に来た子どもの交通費や自立する子どもが暮らし始める際の生活物資、今日泊まる場所がない子どもの宿泊施設代金などに使わせていただきます。

他の方法で応援

物品寄付

ぬっくでは、公開しているほしいもののリストからご寄付をしていただけます。ほしいもののリストから商品をご購入いただくと、ぬっくから子どもたちへ商品を手渡します。

ひとり立ち応援セット

ぬっくでは、シェルターや自立援助ホームを巣立つ子どもなどに、家電・生活用品を支援しています。皆さまからいただいたご寄付を、子どもたちのひとり立ち応援セット購入の費用に使わせていただきます。

遺贈寄付

ぬっくでは、遺言によるご寄付や相続された方からの財産のご寄付を受け付けています。まずは一度、お気軽にご相談ください（協力弁護士・税理士がいます）。

刑事贖罪寄付

被害者のいない刑事事件や、被害者との示談ができない刑事事件などにつき、刑事手続の対象となっている方の改悔の真情を表すための「贖罪寄付」を受け付けています。